



このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業を紹介します。

看護師特定行為研修センターについて

特定行為は診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる行為とされています。そして、チーム医療のキーパーソンである看護師が、患者および国民、ならびに医師やその他の医療関係者から期待される役割を担うため、医療安全に配慮し、医療現場において高度に臨床実践能力を発揮できるよう、自己研鑽を継続する基盤として看護師特定行為研修制度が2015年度から開始されました。この研修を修了したのちには、医師の指導・管理の下、看護師が特定の医療行為を実施することが可能になります。徳島大学病院においても医療現場からの期待に応えるため、厚生労働省に申請し承認を受けて看護師特定行為研修センターを開設し、2020年度より看護師特定行為研修を開始しました。

2020年度には定員5名、特定行為区分が8区分のところ、徳島大学病院および県内の病院から合計6名の応募をいただき全員採択され、無事研修を修了され各病院で特定行為を実施しています。

2021年度には領域別パッケージ研修として術中麻酔管理領域、救急領域、外科系基本領域の3領域を選択可能とし、コース研修として創傷管理コース、血糖管理コースの2コースを選択可能としました。さらに、区分研修として昨年の8区分から15区分に増やしました。これらの領域、コース、区分を組み合わせる選択することが可能となっています。合計7名の応募があり、全員採択され、現在研修を行っています。徳島大学医歯薬学研究部および徳島大学病院の先生方をはじめ、大学外の先生方にもご協力いただいています。

研修修了後には多職種連携により高度で安心な医療を提供することが可能になるものと期待されます。徳島大学病院では現在4名の特定看護師が、手術室、集中治療部、形成外科で特定行為を実施し、診療をサポートしています。今後、さらに多くの特定看護師が診療のサポートされるものと期待されています。

看護師特定行為研修センター長 金山 博臣



開講式(4月)



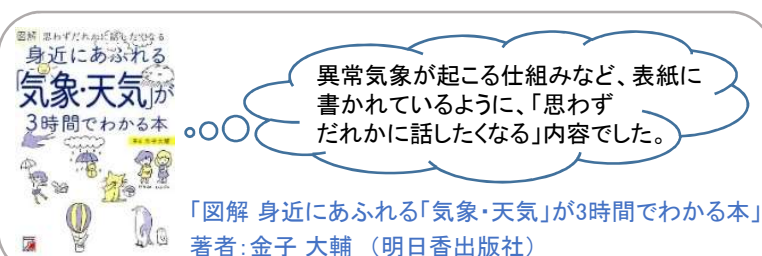
研修風景・フィジカルアセスメント
(講師・赤池先生)

安倍病院長補佐(教育・研修・地域連携担当)に、おすすめの本について寄稿いただきました。



病院長補佐(教育・研修・地域連携担当)の安倍(血液・内分泌代謝内科学分野)です。私は日々時間の余裕もなく、インターネットで調べ物を済ませてしまうので、読書からは全く遠ざかっている生活を送っています。今回、お気に入りの本を紹介するようと言われたので、かろうじて読んだ本の中でお気に入りのものを紹介させていただきます。

最近、地球温暖化、迷走台風、線状降水帯やヒートアイランド現象など昔はあまり聞かなかった言葉をよく耳にするようになりました。いろんな用語が出てきて意味がよくわからないなと思っていましたが、その一方で最高気温が更新されたり、大型台風、ゲリラ豪雨、竜巻やひょうの発生など過去に経験のない異常気象が次々と発生しているため、否応なく気象や天候に関心が出てきていました。そんな時に本屋でふと手に取ったのが「図解 身近にあふれる「気象・天気」が3時間でわかる本」でした。早速購入して読んでみると、わかりやすい絵が多く、とても納得感がある内容でした。時間に追われ、読書をする気力すら薄れている私ですが、繰り返し興味深く読むことができました。子供の頃から雲の形や気象に関してはなんとなく興味があったようで、なるほどと理解すると、毎日見る空の景色が不思議と新鮮で瑞々しく、個性的にさえ見えるようになってきました。私は自転車で通勤しているのですが、意外と上空の空を見ていないことに気がつきました。空を意識し、



異常気象が起こる仕組みなど、表紙に書かれているように、「思わずだれかに話したくなる」内容でした。

「図解 身近にあふれる「気象・天気」が3時間でわかる本」
著者：金子 大輔 (明日香出版社)

いつもより少し上を見ると、見える空の空間が広がり自分の心も広がるような気持ちになります。このように毎朝自転車通勤中空を見ながら気持ちを整え仕事に向かっています。本の紹介と思って書き始めましたが、この気象の本を読んだことで、朝の空をよく見るようになったことが私の気分転換になっていることをお伝えして筆を置きたいと思います。

病院長補佐(教育・研修・地域連携担当) 安倍 正博

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案お待ちしております。





外来診療棟ライトアップによる病気等に関する啓発への取り組み開始について

この度、本院では、病気等の啓発のために外来診療棟外壁の一部をライトアップする設備を設け、シンボルカラーによるライトアップの取り組みを開始することとしました。今後のライトアップの取り組みは、本院ホームページでお知らせします。

ライトアップを希望する部署は、「ライトアップ申請書」を総務課広報・企画係までご提出ください。

○ホームページ掲載場所

病院トップページ → 病院職員向け → 事務部に提出する各種様式 → 総務課
→ 【担当】広報・企画係



病院新採用職員のご紹介

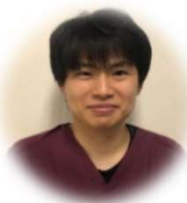


放射線診断科
特任教授 新家 崇義

令和3年4月より、徳島大学病院放射線診断科(実践地域診療・医科学)特任教授として4年ぶりに着任させて頂きました新家 崇義(しんや たかよし)と申します。出身は香川県高松市で岡山大学医学部を卒業後は、岡山大学や徳島大学、川崎医科大学で放射線科の診療・研究・教育に従事して参りました。

現在は大学病院を中心にPET/CTや核医学、CT、MRIを用いた腫瘍診断を主に担当しております。また神経放射線のトップランナーである原田雅史教授とともに、最新画像機器を用いた診療や研究に携わりながら、学生教育や次世代の人材育成のお手伝いもできればと思っております。休日は徳島の豊かな自然の中、趣味のテニスを子供や同僚と楽しんでおります。

未熟な点も多くありますが、徳島県の医療に微力ながら貢献できるように邁進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



産科婦人科
特任助教 今泉 絢貴

令和3年4月より産婦人科に着任しました今泉絢貴と申します。3年間、国立高知病院で勤務し、多数の症例・手術を経験してきました。後期研修医として大学病院に勤務していた4年前よりはレベルアップできたと思っています。

専門は周産期であり、徳島県で多くの妊婦さんが安心して分娩ができるような支えになればいいなと思っております。そのために上司の先生方から多くの知識を吸収し、診療に活かし、多くの妊婦さんが妊娠・出産という幸せの瞬間を大学病院で迎えられるように心がけていきたいと思っております。また教育機関としての役割も認識しつつ、私たちの子供・孫世代が安心して徳島で周産期医療を受けられるように、医学生・研修医に「産婦人科ってこんなにやりがいのある仕事なんだ」という魅力を伝え、未来の産婦人科医の勧誘・育成も頑張りたいと思っております。至らない点も多々ありますが、今後ともよろしくお願い致します。



病理部
臨床検査技師 仲野 史南

令和3年4月より医療技術部・臨床検査技術部門・病理部に配属となりました、仲野史南と申します。私は、臓器の切り出し、薄切、染色等を行っています。病理医が診断しやすい標本作製するためには切片の厚さや染色のコントラストが重要となります。ただただ均一な厚さで切れば良いというものでもなく臓器や染色の種類によって、適切な厚さも異なります。その点で日々病理検査の難しさも感じています。

また細胞検査士として、スクリーニング業務に携わっています。細胞診は組織診より患者さんへの負担が少ない検査が多く、繰り返し検査しやすいため、病気の早期発見・早期治療に役立ちます。

自分の診断によって患者さんの治療方針が変わってくるので、責任の重さを実感しつつやりがいを感じています。まだまだ未熟ですが先輩方に教わりながら日々技術の向上に努めてまいりますので、よろしくお願い致します。



ME管理センター
臨床工学技士 平良 竣也

令和3年度4月より医療技術部臨床工学技術部門に配属となりました臨床工学技士の平良竣也と申します。以前は千葉県内の総合病院にて臨床工学技士として3年間勤務しておりました。私はこれまで主に救急・集中治療分野でECMOや人工呼吸器、血液浄化装置を始めとした生命維持管理装置の操作管理業務に従事してきました。徳島大学病院ではME管理センター、集学治療病棟、手術室、心臓カテーテル室、透析室、内視鏡センター等で様々な分野の臨床工学技士業務に携わっております。初めて経験する分野では、様々な事を学ぶ機会が多く、大変ではありますが、先輩方から丁寧に指導を頂き、できる事が増えるにつれ、やりがいも感じております。

徳島大学病院では、今まで身につけた知識技術を生かし、大学病院でしか経験する事のできない先進医療に携わる中で、多職種の方々と一緒に高度かつ安全な医療提供をできるよう努めて参りますので、何卒宜しくお願い致します。



西病棟6階
看護師 原田 理央

令和3年4月より入職し、西病棟6階に配属となりました。西病棟6階は、呼吸器・膠原病内科の病棟で、肺癌や間質性肺炎などの呼吸器疾患や血管炎などの膠原病疾患の患者さんが入院されています。患者さんの病態に応じて、がん化学療法やステロイド治療、疼痛緩和など、さまざまな治療が実施されています。

日々、看護師としての責任の重さを実感するとともに、自分の未熟さを痛感していますが、先輩方の丁寧なご指導と患者さんからの優しい言葉に支えられながら日々頑張っています。落ち込むこともあります。休日に同期と悩みを共有したり、美味しいご飯を食べることで気分転換をしています。まだまだ至らない点も多くありますが、これからも学ぶことを怠らず、看護師として成長していけるように努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。